高専生の英語多読指導実践
—高専生の学習意欲の育成を求めて—

吉野康子*

Pracitces of English Extensive Reading for Technical College Students
—With Special Reference to Technical College Students' Positive Attitude—

YOSHINO Yasuko

Reading in language teaching is by far the most important of four skills though the current focus is on listening and speaking. Reading is both thinking process and productive activity. It is more than just receiving meaning in a literal sense. It involves bringing a greater thinking ability or cognitive effort. In this paper I examine extensive reading as a whole and practice a method of extensive reading that is most suitable to the technical college students. First I give about 120 second year students the introductory reading strategies of extensive reading, and after that I give them a chance to read extensively through their free choice among about 870 varieties of books. The result of the research show that extensive reading is an effective way to enhance students' positive attitude toward learning English as well as extensive reading.

キーワード： Extensive Reading, Reading strategies, Positive Attitude,

1. はじめに

このテーマを設定した理由は以下の5点である．第1は，「聞く・話す」が重視される現代でも，「読む」は依然として，非常に重要だからである．第2は，ややもすると精読中心になりがちな日本の英語教育において，多読の効用を訴えたいためである．第3は，最近，学校教育全体で問題となっている学習者の学習意欲の低下を，自主的な取り組みを主体とする多読の実践で，少しでも是正したいためである．第4は，高専の学生の読解能力を高めたいからである．筆者が関係した調査でも，高専生の読解能力は，同年代の高校生，大学生と比べて低い．第5に，低学年を対象とするのは，高専では高学年で極端に英語の単位数が少なくなり，英語に自主的に取り組める姿勢と基礎力を低学年でつける必要性があるからである．以上の理由から，この標題のテーマを選び，長野高専2年生122名を対象に実施した．

多読の実践のために，Graded Readers や検定教科書Ⅰを約870冊揃え，授業時間に，読解ストラテジーの導入も行った．実践前と後の学生の意識をはかるアンケートの比較や，語彙力，WPM の変化をもとに，多読実践の考察したい．

* 一般科助教授
原稿受付 2004年5月20日

2. 実施前の学生の能力と意識調査

2−1 読解効率テスト

WPM(words per minutes)と理解度を組み合わせた「読解効率」(Reading Efficiency Index) Fry(1963:33)，(語数／読破時間(分)) × (正答数／設問数) を用いた．黒板に書いた秒数を10秒ごとに消し，自分の読めた秒をメモしたあと，内容に関しての質問5問に答え，その秒数と正答数で読解効率を計算した結果の平均値は次のとおりである．題材はL.A.HillのElementary Stories for Reproduction 1,2(Oxford University Press)から読みやすく，ユーモアの理解しやすいものを選び，実践した．クラスA平均値(39.0)， クラスB平均値(42.7)， クラスC平均値(49.7)， 3クラス平均値(43.8)という結果であった．

2−2 語彙テスト

語彙力を正確に測定するためには，サイズ(breath)と深さ(depth)の観点から考えることができる．(Nagy and Herman, 1987:19-35) サイズとは，知っている語の数で，深さとは，ある語をどれだけよく知っているかの度合いである．語彙サイズテストは，大量の語を扱い，一部の知識を測定し，語彙の深さのテストは，少数の語を扱い，個々のさまざまな知識を測定する．語彙サイズテストとしては，Nation(1990:261-272)による Vocabulary Levels

Test, Meara, (1992)による Yes/No 形式テストが，主なものとしてあげられる．Meara は，5000-6000 語までを’small lexicon’として，その枠を超えてから語彙の深さが語彙測定に必要であると述べている．高専生の語彙力を考える上では，語彙サイズテストの方が適していると判断した．日本人学習者のための英語語彙テストは，研究社によるボキャブラリーコンテスト，中西・石野・Barrow(1996:365-368)と相澤(1998:75-85)があり，相澤の語彙テストを使用した．理由は，日本人学習者に関しての Vocabulary Levels Test の問題点を，外来語の割合，語義の定義，語のレベル，語彙リストの４点とした上で，客観的に短時間で測定できるように改良し，信頼性も検証されているからである．今回は，多読の実践前後で同じレベルのテストで比較できるよう，相澤がクラス編成に使用した 30 問の語彙テストを使用した．この語彙テストの平均値は，クラスＡが 19 点，クラスＢが 20 点，クラスＣが 21 点で，平均は 20 点であった．

2−3 学生の意識をはかるアンケートのまとめ

抜粋し，記述式回答のものは，主な回答を学生の言葉のままのせる．

① 英語は好きですか？

・好き（15 名　12%）　・どちらかといえば好き（43 名　36％）　・どちらかといえば嫌い（49 名 40%）　・嫌い（15 名　12%）

［好きな理由］

・話せると外国人と交流できるから（9 名）　・理解できると楽しいから（9 名）　・話せると海外で便利だから（6 名）　・話せたらかっこいいから（6 名）

［嫌いな理由］

・文法等が難しく，わからないから（17 名）　・単語などが覚えられないから（17 名）

② 英語の文章を読むのは好きですか？

・好き（15 名　12%）　・どちらかといえば好き（47 名　39％）　・どちらかといえば嫌い（42 名 34%）　・嫌い（18 名　15%）

［好きな理由］

・理解できると嬉しいから（15 名）　・達成感があるから（6 名）　・日本語と違った表現，感覚，雰囲気があるから（6 名）

［嫌いな理由］

・文の意味が理解できないから（18 名）　・単語，熟語がわからず理解できないから（13 名）　・理解するのに時間がかかるから（9 名）

③ 英語の文章を速く読めますか？

・自信あり（1 名　1％）　・ある程度自信あり（13 名　11%）　・普通（34 名　28%）　・やや自信なし（34 名　28%）　・自信なし（40 名　32%）

④ 英語の文章を読むとき，わかりにくい箇所はとばして読んでも気にならないですか？

・気にならない(11 名　9％）　・あまり気にならない（30 名　25%）　・ときどき気になる（39 名 32%）　・気になる（42 名　34%）

⑤ 英語の文章を読んでいて，見たことがない単語が出てきたとき，どうしますか？

・まず辞書をひいて単語の意味を調べる（39 名 32%）　・ひとくぎり読んだ後に辞書をひき意味を調べる（43 名　35%）　・辞書はひかずにそのまま読み進む（13 名　11%）　・何回かその前後を読んでその意味を考える（22 名　18%）

⑥ 今までに教科書以外の英語の本を読んだことがありますか？

・ある（83 名　68%）　・ない（39 名　74%）

「ある」と答えた中で，課題としてが 74%

⑦ 英語を読むのは楽しいですか？

・楽しい（14 名　11%）　・ある程度楽しい（59 名 49%）　・少し苦痛（39 名　32%）　・とても苦痛（10 名　8%）

⑧ 辞書に頼らずに，英語の文章を読めるようになりたいですか？

・なりたい（114 名　93%）　・特に必要ない（8 名 7%）

⑨ 一週間に何時間くらい英語の勉強をしますか？（授業時間は除く）

・0 時間(20 名　16%）　・1-3 時間(63 名　52%）　・4-6 時間 (29 名　24%）　・7-9 時間 (7 名　6%）　・10-12 時間（0 名　0%）　・13-15 時間（3 名　2%）

⑩ 「英語を読むこと」についてあなたはどのように思いますか？

・良いことで大切である（自信がつくので，世界で通じるので ete)（40 名）　・難しく，大変である（15 名）　・読めるようになりたい（12 名）　・読めると興味がもて楽しい（10 名）　異文化に接する良い機会である（8 名）

3. 指導実践

3−1 教材

i　種類

段階別教本(Graded Readers)は，学生に負担感を持たせずに英文の量を増やし，読解に必要な推測力を養うことができる．未知語や，難しい構文に出会

っても自分の力で読み取っていく力につながる．また言語レベルが学生のレベルに近いため，そのことばを使っての内容の説明，要約，他学生への紹介などの言語活動も行うことができる．まずは，学生の興味，関心に合わせて選べることが大切である．簡単な内容紹介を基に，自分で読みたい本かどうかを判断させて読書に取り組ませることによって，積極的な読みの姿勢を打ち立てていく．学習者が本を選ぶ際，語彙レベルよりも，むしろ内容を基準にする傾向があるという報告も留意した．種類はPenguin Readers, Oxford Book Wormsを中心に，英語の絵本もできる限り揃えた．今回は，学生の選択の幅を増やすことが可能になるので，教材に検定済教科書 50 冊も加えた． 題材が多岐にわたり，教育的であり， 各教科書とも学習者のスキーマを活性させる資料や工夫が豊富なので，昨年度使用していない検定済教科書の英語Ⅰを加えた．

ii レベル

語彙レベル，長さ，挿絵の量を考慮して，すべての本に通し番号を書いたラベル－初級（黄色），中級（赤色），上級（青色）を貼った． 上級レベルが必要な学生は少ないと予想されたが，将来の目安や目標のためにも紹介した． 4月のスタート時点で揃えたのは，初級（語彙レベル 1000語以下）の本を229 冊， 中級（語彙レベル 1000 から 1500）の本を 139 冊， 上級（語彙レベル 1500 以上）の本を58 冊， 検定済教科書と合わせて， 合計 476 冊であった．その後，校長特別経費をいただき，初級の本を394 冊購入でき， 合計870 冊の本を揃えることができた．

3－2 意義と実践

i 読解ストラテジー（Reading Strategy）指導

読解ストラテジーとは， 読み手がテクストに効果的にアプローチして， 自分の読んだものを理解していく際の心的操作である．(Barnett 1988:150-162)とすると， 読解とは認知的問題解決活動の一種と考えられる． 1980年代後半から， 第二言語読解研究に「心理言語・認知主義」的見方が導入され， 読み手のReading Strategyに対する意識， 認識(Awareness, Perception)， すなわちメタ認知的認識(Metacognitive Awareness)も第二言語の読解の成否と関係がある，ということで注目されるようになった． 読解過程や読解ストラテジーのメタ認知とは， 自己の読解のプロセスや方略を自分で把握し， 認識することである． 学習者が英文を読むとき， 自分がどのように読んでいるのか，またどのように読めば適切なのかについて， 自分で気づき自覚し， 意識することをいう．

高専での実践を考える場合， 精読しか経験のない学生がほとんどなので， まず， 読解ストラテジーを少しずつ身につけられるよう， 授業内で指導した． 効果的リーディングには， 正確ですばやい識別技術と的確な解決技術が絶えず要求される． そこで目標とするのは， 以下のCohen(1990:84-91)のストラテジーの中の特に， ①～⑤である．

① 読む前に何のために読むのか目的を明確にもつ．② テキストの構成を理解する． さっと全体に目を通し， 副題， 図表， レイアウトに注意し， 要約があれば読む． ③ 関連のある背景知識を活用し， 内容の予測を立てる． そうすることで， スキーマが活性化され， 注意を集中して積極的なリーディングに臨むことができる． ④ 主要な内容に焦点をあてる． ⑤ 文脈を活用し辞書の濫用を避ける． ⑥ 大きなまとまりを単位に読む． ⑦ 読みながら要約する． 数行おきに要約し， 内容を記憶に留め， できれば各要約が一貫するように心がける． ⑧ 連結詞に注意する． However, Moreover などは文と文の関係を示し， 結合を図る重要な信号である．

ii 授業内読解指導実践

具体的には， 1週間に一度， 授業時間45分を使って， 投げ込み教材で次のように読解スキル練習を行った． 第 1 週から第6週を読解技術の説明，練習にあて， その後， 多読に入ったが， 第6週以前でも， 希望に応じて興味のある本の貸し出しを行った． 第1週はIntroductionとして， 多読プログラムの主旨や方法の説明を行った． 文章の細部にも注意して， 内容をじっくり味わい， 考えながら読む「精読」はもちろん重要だが， 英語を読む力を伸ばすには， 「多読」が必要なことを力説した．ペーパーバックを見せて， 中学・高校教科書の本文だけの語数では， 中学合計約 19 ページ分， 高校合計 138 ページ分， 6 冊合わせても， 約 157 ページ分にしかならない量不足を示した． 多読の効果として， ・英語の文章を読むことに抵抗がなくなり，自信がつく． ・英語の文章を和訳しないで， そのまま読めるようになる． ・英語の文章を読み終えたという満足感が得られる． ・英語の全体的な力が向上する． ・知らない単語の意味を前後関係から予測する力がつく． ・「流し読み」「拾い読み」ができるようになる． ・英語の文章を読み終わった後， 英語で要約や感想を書けば， 書く力が向上する． ということも紹介した． 第2週目はScanning(情報検索読み)に取り組んだ． 日本語の場合は， 新聞や

雑誌の広告，スケジュール表などから，必要な情報を読み取る Scanning を自然にやっていることを確認して，簡単なスケジュール表の見方から練習した．第 3 週は，未知語の推測に取り組んだ．文中に意味のわからない語があった場合，辞書を用いず，語句の成り立ちや，文脈などから語句の意味を推測する練習のため，最初は，短い文の選択穴埋めで，予測しやすいものを用いた．第 4 週は Phrase Reading を紹介するのに，まず意味のまとまり（sense group）に区切る練習を行った．その際，日本語に直すこともsense group の中だけで訳し，文の頭から順に意味をとる練習を行った．英語の文を読むときに，sense group で読み，その情報の断片をつなぎ合わせて，意味をとる大切さや効用を説明した．第 5 週は Paragraph Reading を理解するのに，まず 2 つ以上の文からなるパラグラフ（paragraph）というまとまった意味・内容を表す文の集合体が文を読みやすくすること，文の書き手はこのパラグラフという意味の単位を表現の基礎単位として内容をまとめ，複数のパラグラフを順次結びつけて全体にまとめることを説明した．パラグラフには書き手が表現しようとする「中心概念・思想」(main idea)と「主題」(topic)が含まれること，中心概念を展開する文を「支持文」(supporting details)といい，実際どのようなものかを，教科書の文から紹介した．パラグラフリーディングの作業手順は紹介したが，練習としては main idea の発見にしぼった．第 6 週は，まとめとしての意識をもたせて，Skimming(大意把握読み)の手順を紹介した．今回は 5W1H に重きを置き，108 語，134 語，146 語の比較的短く，ユーモアのある文章で概要を読み取る練習をした．

iii 授業内・外多読実践

第 7 週以降は，授業内・外の時間を使い，読書累計表を配布し，多読を開始し，本の貸し出しも奨励した．本の量が十分でないため，上級生への貸し出しは積極的には奨励できなかったが，上級生が読んだという事実は，2 年生にとって非常に良い刺激となった．負担のない，楽しめるレベルから始めることを勧めて，簡単に見える本でも，読む価値が十分あることを強調した．その際，上級生が初級の本を読んで推薦文を書いた読書カードを紹介し，抵抗感をなくした．出版社により差はあるが，Beginners(300 words) ～ Elementary(600 words)で，とにかく興味のあるものという視点で選ばせた．できる限り辞書は使わないよう指導し，未知語は前後関係から判断することを強調した．学生は授業内・外両方を使って，自分のペースで読み，読書状況や，本の管理のために，読書カードを作成した．つまらなく，途中でやめた場合も途中経過がわかるように，どこまで読んだかを記入させた．本の種類や，読むのにかかった時間は，競争意識をもって，友達のカードを見るようである．自分の感じた「面白さ度」「難易度」は 5 段階の選択にし，感想文またはこれから読む人への推薦文は日本語で書いても英語で書いてもよいことにした．学生の読書状況は，読書カードで把握できるが，個人個人が自分の読書量を意識し，確認できるためにも，読書累計表を渡した．それには，レベル，題名，完読度とし，最後まで読めなかった本も記入することとした．夏休み前，冬休み前，年度末の 3 回集めて，励ましのコメントを書いて，継続を奨励した．

4. 実践後の学生の能力と意識調査

4－1 読解効率テスト

一斉に行った授業内実践期間の変化を調べ，5 月は，クラスA平均値 52.4，クラスB平均値 50.3，クラスC平均値 58.5，3 クラス平均 53.7 であり，6 月はクラスA平均値 64.1，クラスB平均値 53.7，クラスC平均値 72.7，3 クラス平均 63.5 であった．

4－2 語彙テスト

今回の語彙テストも，レベルや形式が実践前に行った語彙テストと同じものを用いた．単語の定義として適当なものを 6 つの英単語の中から選ぶものである．この語彙テストは，授業内多読実践の後に行い，30 点満点中，クラスAが 22 点，クラスBが 23 点，クラスCが 23 点で，平均は 22.7 点であった．

4－3 学生の意識変化のアンケートのまとめ

アンケート項目の中から抜粋し，記述式回答のものは，主な回答を学生の言葉のままのせる．

① 英語が前より好きになりましたか？

・好きになった（5 名 4%） ・どちらかといえば好きになった（32 名 26%） ・変わらない（78 名 64%） ・どちらかといえば嫌いになった（7 名 6%） ・嫌いになった（0 名 0%）

② 英文を読むのが前より楽しくなりましたか？

・大いに思う（5 名 4%） ・少し思う（46 名 38%） ・変わらない（63 名 52%） ・あまり思わない（8 名 6%） ・全然思わない（0 名 0%）

③ 英文の読み方が前より速くなったと思いますか

・大いに思う（8 名 6%） ・少し思う（60 名

49%)　・変わらない(47名　39%)　・あまり思わない(6名　5%)　・全然思わない(1名　1%)

④　辞書にあまり頼らなくても前より英文を読むことができるようになりましたか？

・できるようになった(4名　3%)　・少しできるようになった(45名　37%)　・変わらない(58名　48%)　・あまりできるようにならなかった(12名　9%)　・全然できるようにならなかった(4名　3%)

⑤　多読のストラテジーの中で一番役に立ったと思うものは何ですか？

・Scanning(18名　15%)　・未知語の推測(63名　52%)　・Phrase Reading(17名　14%)　・Paragraph Reading(2名　2%)　・Skimming(13名　16%)　・未回答(9名　7%)

それはなぜですか？

Scanning

・読むのが速くなりそうだから(3名)　・重要なところを拾って読めるから(2名)

未知語の推測

・辞書をあまり使わず読めるようになったから(11名)　・今までわからない単語は必ず調べていたけれど，前後の文から結構推測できるようになったから(11名)　・内容を理解するのに役立ったから(7名)

Phrase Reading

・区切ると，内容が少しわかるようになったから(13名)　・長い英文でも一気に訳そうとせず，意味ごとのまとまりで訳していけば読めるから(3名)

Paragraph Reading

・だいたいの意味がわかるようになるから

Skimming

・文章の大意をつかめるようになったから(5名)

⑥　家で英語の本や雑誌を読む習慣が前よりついたと思いますか？

・大いに思う(0名　0%)　・少し思う(24名　20%)　・変わらない(84名　69%)　・あまり思わない(6名　5%)　・全然思わない(8名　6%)

⑦　「英語を読むこと」について，以前と思いが変わりましたか？

・変わったと思う(4名　3%)　・少し変わったと思う(39名　32%)　・わからない(5名　4%)　・あまり変わらない(30名　25%)　・全然変わらない(44名　36%)

変わったと思う理由を書いてください.

・以前に比べて，英語の本を読むのが楽しくなった(10名)　・大変なことだと思ったけれど，簡単なものなら読めて，内容がわかることに気づいた(4名)　・今までチャンスがなかったので，今回の授業をきっかけに読めてよかったし，これからもっと読みたい(3名)　・読んでみようかと思うようになった(3名)　・英語を読むスピードが速くなったと思うから(3名)　・英語をできるようにするには，まず英語を好きになって沢山読むことが大切だと最近になって気づいたし，英語は得意でないので早いうちに頑張らなくてはと思う　・辞書なしには読めないと思っていたけれど，簡単な本なら自分の力で読めるんだと自信がついた

5. 考察

5−1 教材

学生に負担感を持たせずに英文の量を増やし，読解に必要な推測力を養わせるため，できる限りGraded Readersをそろえ，検定済教科書英語Ⅰの50冊と合わせて476冊で多読の実践を始め，校長特別経費で追加することができ，870冊の本が多読用に用意できたが，不十分であった．学生が興味・関心に合わせて選べることが大切なので，様々なジャンルやレベルをそろえたが，初級の本はより必要であった．語彙レベル1000語以下を初級Aとして，初級AAとして紹介した語彙レベル300語の本は特に必要であった．抵抗感なく，薄くても1冊読めたという充実感がもてるということで人気があった．また同じ本を複数そろえる必要性を感じた．読書カードの感想で好評だった本，映画等でなじみの深い本を複数そろえると，学生に推薦するのに今後も有効である．また，読書カードの感想や推薦文によって選ぶ学生も多いので，同種教材が複数あると読む意欲を促進するのに効果的であることがわかった．本の数が十分でないため，選択の幅を増やすために，題材が多岐にわたり，学習者のスキーマを活性化させる工夫が豊富な検定済教科書を加えた．その主旨や，Comprehension, Exercisesは行わずに，興味のある課だけ読めばいいことを伝えたが，授業中に読んだ学生が数名，授業外に借りていって読んだ学生はゼロであった．何名もの学生に聞いたところ，「教科書というだけで読む気がしない」「一冊読んだという充実感がない」「おもしろい話もあるかもしれないが，教科書を選びたくはない」などの声があった．やはり教科書＝勉強というイメージから楽しく読むことにはつながらないことがわかった．しかし，他の学校の友人がどういう教科書で学んでいるのか，などの興味から読む学生や，「大統領の演説」のような，

トピック別のテキストに興味をもつ学生もいるので，選択の幅を広げておくのは必要だと感じた．

5−2 指導法・指導過程

i 読解ストラテジー指導

第1週から第6週まで，Introduction(多読プログラム・方法説明)，Scanning，Phrase Reading，Paragraph Reading，Skimming という順で，読解ストラテジーの説明，練習にあてた．理由は，精読しか経験していない学生がほとんどであるので，多読は精読と違い，細かい部分の内容把握には多少目をつむっても，概要や要点を効率よく理解する読み方であることを強く意識させるためであった．7週目以降，多読の実践に入ってからも，繰り返し強調し，今回学んだ読解ストラテジーは試験範囲にも入れたので，かなり定着できた．正確ですばやい識別技術と解決技術が要求される効果的リーディングのために，Cohen(1990)のストラテジーの5つを目標としてきた．それらは，・読む前に目的意識をもつこと ・テキストの構成を理解すること ・関連ある背景知識を活用し，内容の予測を立てること ・主要な内容に要点をあてること ・文脈を活用し辞書の濫用をさけること，であり，ある程度達成できたと思う．自分で選んだ本であるということから，興味・関心があり，背景知識もあることが多かった．辞書を使う学生はほとんどいなくなり，内容をつかめば，とばして読めるようになったという声も聞けた．

ii 多読実践

第7週目からは，本来個人的作業である「読み」の活動に貴重な時間を割いたのだが，その価値はあった．理由は，自主的には取り組まない学生でも，有無を言わせず，教科書以外の本に触れ，まわりでもみんなが読んでいるという雰囲気や，次々読んでいる友人の態度に影響され，競争意識から読む学生が多かったからである．毎回4，5人の学生に手伝ってもらい，授業前に初級，中級の本を教室に運び，7週目だけは，グループ活動とし，グループごとにある程度の本を置き，意見交換しながら，本を選ぶようにした．8週目からは，借りて読む本が決まっている学生は個人の座席で読み，本を選ぶ学生だけが，前に来て自由に選ぶ形式にし，比較的スムーズにできた．最初は本の管理や時間節約のため筆者の研究室で貸し出しを試みたが，研究室に常時いられない不都合があった．そこで，少しでも読む意欲を促進できるよう，教室でも貸し出し，何冊借りようと，期限が延びようと，簡単な感想文であろうと，とにかく興味をもった本を少しでも多く読むことを薦め，褒めることに力を入れた．そのことにより，借りようか迷っていた学生が，読んでみようという前向きの気持ちをもってくれたケースが多々あった．7月2日までに貸し出した総数は406冊であった．9月以降は，授業外の時間で多読を継続したが，授業で多読を行わないと伸び率は低く，年度末の合計は517冊であった．

5−3 読解能力の変化

i 読解効率

WPM と理解度を組み合わせた読解効率テストは，授業内実践前後と，その中間の5月にも計り，合計3回実施した．その結果は，3クラスの平均で，4月が43.8，5月が53.7，6月が63.5と多少伸びたといえるが，少し要領になれたためと思われる．特に1回目の読解効率は，ストップウオッチで計って読むことにあせり，読みにかかった秒数を忘れたり，質問まで終えての秒数と勘違いした学生が各クラス2,3名いた．時間的余裕があれば，本番の前に練習すべきであった．また，理解度をはかるための英問英答は選択肢問題の方が適切であった．理由は，この時だけ，細かいスペリングや文法ミスもおまけというのは，普段の試験と整合性がない．どの程度で正解になるのかという質問も多く，答え合わせに時間がかかったので，学生が採点しやすい点と時間節約の点からも選択肢の方が適切であった．

ii 語彙力

語彙力に関しては，多読の授業実践前と実践後の2回のテストを行った．2回のテストでは判断するのは難しいが，3クラス平均が4月に30問中20問正解であったものが，同レベルの同数のテストで22.7問正解で多少の伸び率があった．この多読によって語彙力が伸びたことは検証できなくても，未知語に対しての意識変化はかなりあった．未知語はすぐ辞書をひくのでなく，前後から推測する読み方を知ったり，少しできるようになったという学生が多く，継続すれば，語彙力は伸びるはずである．

5−4 学習意欲の変化

i 英語への好感度

① 英語が前より好きになりましたか？

・好きになった（4%） ・どちらかと言えば好きになった（26%） ・変わらない（64%） ・どちらかといえば嫌いになった(6%) ・嫌いになった（0%）

以上の結果から，英語に対しての気持ちは，あまり変化のないことがわかる．授業内実践は，12週間

という短期間であり，さまざまな行事のなか，急に意識が変わる方が無理なことである． 好きになった学生が30%いたことは,非常に嬉しい結果である．

ii 多読への取り組み

② 英語を読むのが楽しくなったと思いますか？

・大いに思う（4%） ・少し思う（38%） ・変わらない（52%） ・あまり思わない（6%） ・全然思わない（0%）

③ 英文の読み方が速くなったと思いますか？

・大いに思う（6%） ・少し思う（49%） ・変わらない（39%） ・あまり思わない（5%） ・全然思わない（1%）

④ 辞書にあまり頼らなくても英文を読むことができるようになりましたか？

・できるようになった(3%) ・少しできるようになった(37%) ・変わらない(48%) ・あまりできない（9%） ・全然できない(3%)

⑤ 多読のストラテジーの中で一番役に立ったと思うものは何ですか？

・Scanning(15%) ・未知語の推測(52%) ・Phrase Reading(14%) ・ Paragraph Reading(2%) ・ Skimming(10%) ・未回答(7%)

⑥ 家で英語の本や雑誌を読む習慣が前よりついたと思いますか？

・大いに思う(0%) ・少し思う（20%） ・変わらない（69%） ・あまり思わない（5%） ・全然思わない(6%)

以上の多読に関するアンケートから，英語を読むのが前より楽しくなった学生が42%，英文を読む速度が速くなったと思う学生が55%，辞書に頼らなくても英文を読むことができるようになった学生が40%と，これは多読による効果であるといえる． 多読の実践を始める前に，精読と違う読み方を意識させて練習するために，第1週から第6週までを読解ストラテジー指導に費やした． その読解ストラテジーに関してのアンケートから，未知語の推測が一番役に立ったと思う学生が52%いて，かなり印象的であったことがわかる． 辞書を使わない読み方が初めての学生も多く，辞書を使わなくても理解できた喜びは，英語を読むことへの意欲につながることが多くの感想からわかった． Scanningに関しては，最初の導入であり，全文を訳さず情報収集として能率がよく，15%と，未知語の次に印象に残っている学生が多かった． Phrase readingは，長い文の読み方が要領よくなったという感想が多く，意味もつかみやすく，速く読めると，教科書でも試す学生が多くなった． Paragraph reading, Skimmingに関しては，あまり十分な説明，練習の時間がなく，さらなる指導が必要である． 授業時間を多読にさいたことから，どの学生も自分で選んだ教科書以外の英文に触れる経験をし，真面目に取り組んでくれた．友達の読む態度に刺激されたり，競争意識をもって，前向きに取り組む学生が多かった． しかし，家で英語の本や雑誌を読む習慣は，少しついたと思う学生が20%で，変わらないと答えた学生が69%，思わない学生が11%いて，ほとんどついていない． ごく一部の学生にだけ変化が見られた．

授業実践を伴った7月までの期間に学生が読んだ本の冊数は，Aクラス147冊，Bクラス139冊，Cクラス120冊で，平均にすると，一人3.3冊であった．個人的にみると，一位A君11冊（初級5冊，中級5冊，上級1冊），二位Bさん10冊（初級10冊），三位Cさん8冊（初級8冊）であった． その勢いで継続すれば，年度末までに，かなりの量と期待したが，後期は授業外だけに限定すると，とたんに伸び悩み，Aクラス184冊，Bクラス152冊，Cクラス181冊で，平均にすると，一人4.2冊であった．しかし，個人的にみると読む学生と，読まない学生が二極化していて，10冊以上読んだ学生は28名いた．上級生でも興味を持ち借りにくる学生の中で，10月15日から2月までに31冊読みこなし，自信をつけた学生もいた． 学生が読んだ本は，ほとんどが初級レベルの本であるが，映画で興味を持ち，上級の’Gradiator’を読んだ学生が2名，中級でも，映画等で知っているストーリーや短編は，後半になって挑戦する学生がかなりいた． 筆者の研究室によく本を見たり借りにくる学生の言葉で多いのは，「寝る前，通学時の習慣にして読むと，苦にならなくなった」「インターネットの英語など，前はわからないから読む気もしなかったが，読もうという気が出てきた」「どんなに薄い本でも，1冊読み終えると満足感がある」などである． 授業中に，「多読なんて無理だ」と言い張っていた学生で，自分で買ってきた英語の本でもいいということから読む気になり読書感想文も前向きに書いてくれた例もあった．また，英語が苦手で，テストの赤点の相談に来た学生が，‘Matilda’という本に感動したことを熱く語り，他の学生に読ませたいので，ぜひ複数その本をそろえてほしいと言い，非常に嬉しい要望であった．短期間の実践であり，一人平均にすると，たいした量の読書ではないが，簡単な英語の本なら辞書なしで読めたという自信は次への大きなステップになると思う．

iii 「英語を読むこと」への意識

⑦「英語を読むこと」について，以前と思いが変わりましたか？

・変わったと思う（3%）　・少し変わったと思う（32%）　・あまり変わらない（25%）　・変わらない（36%）　・わからない（4%）

短期間であり，「英語を読むこと」に集中できることは難しく，意識変化も数値では少ないが，記述からは非常に前向きな意見が多かった．　中でも，複数の学生が回答した・以前に比べて，英語の本を読むのが楽しくなった．　・大変なことだと思ったけれど，簡単なものなら読めて，内容がわかることに気づいた．　・今までチャンスがなかったので，今回の授業をきっかけに読めてよかったし，もっと読みたい．　等から，主体的読み手につながる動機付けができた学生も少なからずいた．　「読む」ということは，個人的な作業ではあるが，興味や関心がもてるよう助け，励ますことにより，読むことへの自信につながると確信し，今後も継続していきたい．

参考文献

1) 相澤一美（2000）「日本人英語学習者の未知語推測と教材示唆」『日本教材学会年報』第11巻
2) 卯城祐司（2001）「学習者」「リーディング」『新学習指導要領にもとづく指導法』大修館書店
3) 長勝彦(1996)「私のリーディングマラソン」『現代英語教育』8月号　研究社出版
4) 門田修平(2002)『英語の書きことばと話ことばはいかに関係しているか』くろしお出版
5) 門田修平・野呂忠司（2001）『英語リーディングの認知メカニズム』くろしお出版
6) 金谷憲(1995)『英語リーディング論』河源社
7) 金谷憲(1992)「英語多読プログラムーその読解力、学習方法への影響」『関東信越英語教育学会研要』
8) 鈴木寿一(1992)「個人差に対応した多読指導の効果」『英語教育研究』第16号　日本教育学会関西支部
9) 高梨庸雄・卯城祐司(2000)『英語リーディング事典』研究社出版
10) 谷口賢一郎(1998)『英語教育改善へのフィロソフィー』大修館書店
11) 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ(1999)『学習者中心の英語読解指導』大修館書店
12) 天満美智子(1994)『新しい英文読解法』岩波書店
13) 天満美智子(2000)『英文読解のストラテジー』大修館書店
14) 中西義子ほか(1998)「日本人学生の Vocabulary Family Test に関する一考察」『大学英語教育学会第35回全国大会要綱』
15) 橋本雅文ほか(1998)「多読指導からのアプローチ」『英語教育』大修館書店 Vol. 47 No. 2
16) 藤原宏之(1991)「多読指導のこころみ」『英語展望』No. 97　ELEC 英語協議会
17) 森住衛(1981)「楽しい授業とは何か」『英語教育』大修館書店 Vol. 30 NO. 1
18) 薬袋洋子(1993)「リーディングマラソンー多読指導の試みー」『現代英語教育』7月号
19) Cohen, Andrew D. (1990) *Language Learning*: Newbury House
20) Day, RichardR. andBamford, Julian(2001) *Extensive Reading in the Second Language Classroom*: Cambridge
21) Fry, Edward(1963) *Teaching Faster Reading* : CUP
22) Meara, P. (1992) *EFL Vocabulary Test : Center for Applied Language Studies* : University of Wales, Swansea
23) Nagy, W. and Herman, P(1987)' Breadth and depth of Vocabulary knowledge: Implications for acquisition and instruction: *The nature of vocabulary acquisition:* Lawrence Erbaum Associates
24) Nation, I. (1990) *Teaching & Learning Vocabulary* : Heinle & Heinle
25) Nutall, Christine(1996) *Teaching Reading Skills in a foreign language*: Macmillan Heinemann